

# 平成28年度第1回天童市総合教育会議議事録

総務部総務課

- 1 日時 平成28年4月19日(火)  
午前9時30分から午前10時20分まで
- 2 場所 本庁舎「3階会議室」
- 3 出席者
  - (1) 出席構成員  
天童市長 山本 信治                      教育長 相澤 一彦  
教育委員 佐藤 通隆                      教育委員 大貫 紀代子  
教育委員 本田 孝之                      教育委員 阿部 真由美
  - (2) 説明のため出席した者の職氏名  
教育次長 中島 伸一                      学校給食センター所長 東海林 明夫  
学校教育課長 江川 久美子              生涯学習課長 武田 文敏  
教育総務課課長補佐兼庶務係長 矢萩 茂
  - (3) 事務局職員の職氏名  
総務部長 武田 淳                      総務課長 森谷 倫祥  
総務課課長補佐兼行政係長 熊澤 輝  
総務課行政係主査 丸子 正彦
- 4 議事録署名員  
教育長 相澤 一彦
- 5 次第
  - (1) 開会
  - (2) あいさつ
  - (3) 説明事項  
総合教育会議及び教育大綱について
  - (4) 協議・運営事項  
ア 平成28年度の教育行政に係る重点施策について  
イ その他
  - (5) 閉会

## 6 会議の内容

発言者	発言内容
熊澤課長補佐 (司会)	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>(1) 山本市長あいさつ</p> <p>(2) 相澤教育長あいさつ</p>
山本市長	<p>3 説明事項</p> <p>ここからは、私が議長となり、進めていきます。</p> <p>まず、天童市総合教育会議運営要綱第4条第2項の規定により、議事録署名員を指名させていただきます。</p> <p>相澤教育長によろしくお願いしたいと思います。</p>
相澤教育長	<p>わかりました。</p>
山本市長	<p>それでは進めさせていただきます。最初に説明事項の「総合教育会議及び教育大綱について」事務局の説明を求めます。</p>
熊澤課長補佐	<p>(総合教育会議及び教育大綱について説明)</p>
山本市長	<p>事務局の方からの説明がありましたが、皆様の方から御質問、御意見はございませんか。</p> <p>(特段なし)</p>
山本市長	<p>4 協議・調整事項</p> <p>(1) 平成28年度の教育行政に係る重点施策について</p> <p>次は、協議・調整事項です。「(1) 平成28年度の教育行政に係る重点施策について」説明を求めます。</p>
中島教育次長ほか	<p>(教育総務課、学校給食センター、学校教育課及び生涯学習課の平成28年度の重点施策について説明)</p>

山本市長

一通りの説明で、色々それぞれの課題があるわけですが、ちょっと話がずれますが、この間校長先生の会議がありまして、私も出させていただきました。短い時間しかなくあまり話せなかったのですが、その中で私の思いなども少し話をさせていただきました。本市も一昨年大変な事案を経験しているわけですが、その中で先般四中で、子どもたちの取組や課題などの話を聞かせていただき、現場では非常にしっかりと対応していると感じました。今回あのような事案につながったということは、我々としても反省材料なのですが、そういうところをしっかりと作っていくにはどうして行くのか、ということになると、教育現場でだけではないと思っております。我々も教育委員会を始めとして様々な形の中で支援をしていく、そして子どもたちに寄り添っていくというようなものを市全体で醸し出していくということが大事であると思われました。その中で本市の教育環境を、ハードソフトも含めて県下ナンバー1の地域にしていきたい、という話をさせていただきました。理由を申し上げますと、今東根市にも中高一貫校ができて、あるいは山形市も教育に非常に力を入れており、教育関係が市として将来のまちづくりの大きな成長要素、維持要因をつくっていく非常に大きい部分であると思えます。そういうことを考えると、教育委員会の役割というものもおのずと大きくなるわけですので、皆さんから御意見をいただいて、学校現場のみならず、我々も一体となって教育の振興をできる体制に持っていきたいと思えます。是非教育委員会の皆様には、思い立ってのこと、あるいは今考えているようなことを率直に御披露していただきたいと思えます。今日は説明の部分が多いですが、今後もう少しフリーな時間を取れるようにして、この場を設定していただくように事務方にはお願いしたいと思えます。

ところで日新製薬の基金の活用は、いつからスタートするの。

中島教育次長

寺津小のタブレットの方は6月くらいには購入予定ですので、その後学校に配付して、色々な各学校の、他の学校からも色々視察なんかも来ていただいたりして活用していきたいと思っております。

山本市長	<p>四中では、今色々と地域の方々と支援員を探している状態ですが、間もなく見つかると思いますので、もう少し時間をいただきたいと思います。</p> <p>どうぞ皆さん何かございましたら。本田委員何かありますか。</p>
本田委員	<p>今の話に関連するのですが、タブレット端末は、使い方一つによってどういきるかというのが単純に決まってしまうような気がします。どんな使い方する、という細かいものを見ていないのでわからないのですが、先生たちがこの使い方の研修をする場は既にあるのか、そういった予算もとってあるのか。私は、こういうところが導入する上でのネックになってくると思っておりました。以前見させていただいたことがあって、本田小学校に行った時に見てきた中では、確かに子どもたちが物珍しがってやっている姿はあるのですが、それが本当にうまく使っているかということに及ぶとちょっと疑問を感じたまま私は帰ってきた記憶があります。珍しいことをするというのも一つの良いことではありますが、タブレットは使い方一つであります。タブレットについては、特別これから難しいものでも珍しいものでもなくなるとは思いますが、教える方が子どもたちよりも使い方の発想がない、というかちょっと固まってしまっているところがありました。子どもたちは多分もっともっと色々な発想で色々な使い方ができるのだと思います。ただ、教える側、使う側として小さい時から使っていたものではないので、今見たものの色々なことで使い方を決めてしまっているところがあるのかなと思います。教える、使う方の立場としての色々な講習会や色々なものを見る、聞くという機会というのは、一番大切であるということを感じたところでした。</p>
江川学校教育課長	<p>随時視察に行ってまいりました。</p>
本田委員	<p>今そういう提案があったということは、多分色々な使い方を考えられてしているのはわかるのですが、それが一人の先生だけで済むわけではないので、そのようなことを落とし込</p>

江川学校教育課長	<p>むために色々なところに出たり、講習をしたり、そういう機会があるのかと思ったところでした。</p> <p>ありがとうございます。寒河江市に高松小学校とって、先進的にICTに取り組んでいる学校がごいます。例えば、反転授業とって、タブレットを持ち帰って自宅で授業の予習をして、それをまた持ってきて授業する。記憶されるんですね、そのノートにも。それで、考えを学校で出し合う。普通ですと学校で課題が提示されて、そこからみんなが考えて、交流してというものがあるのですが、その前段を家でやってきて、みんなで考えようというところから授業が始められ、考える時間が多く取れる、という一つ事例があります。高松小学校では、先進的にここ何年か取り組んでいるので、例えばそういう学校に研修に行って色々な使い方を得てくるというようなこと、あと少人数ですので、それぞれの課題に応じて調べたいことや探求したいことがあるわけなので、それぞれ使って、後ほどみんなデータを突き合わせるなどということも紙ベースで勉強することよりは非常に豊かにできる、というようなことも考えられます。そのようなことを色々なところで、我々学校教育課でもよく仕入れて、学校に情報提供したり、授業を考えていたりということは構想をしています。</p>
本田委員	<p>子どもたちが勉強に対する姿勢、興味というものは、やり方によってはいきなり入り込めるのかな、ということもありますし、私たちが見てきたところよりは今お聞きしたところの方がずっと先進的な気がします。</p>
山本市長	<p>学校の教育現場の先生が苦痛になっているということはないのでしょうか。というのは、そういうことが得意不得意も含めて配置なっているわけなので、その辺が少し心配なのですが、その辺はどうなのですか。</p>
江川学校教育課長	<p>私自身も得意でないので、とてもそういう先生方の気持ちはわかるような気がします。それで例えばなのですが、タブレット等のメーカーさんなどにそういうことを指導したり、サポートしたりする人などいるという話も聞いています。</p>

山本市長	<p>これからよく調べますが、例えばそういう I C T 活動支援員のような常時いる方でなくて、そういう授業をするときに支援をしてくれるような方を活用する、お願いをすることで、教員の方の技術も高めていき、知らない機能についても学校の方で得ていくということが考えられると思っています。</p> <p>今回、県全体の中学校に入れた県があったと思ったが、そうするとかなり大量の機器が教育現場に入っていくわけですから、メーカーとしても今後そういう支援体制をとっていくと思います。当然販売競争するわけですから。我々もそれは十分に利用していく必要があるでしょう。</p>
中島教育次長	<p>先ほど話がありました地域のコーディネーターには、今年度 5 0 0 万円ほど予算がありますので、地域の中でそういう I C T に詳しい方とかいらっしゃれば、そういう方も審議員として学校にお招きをして、お願いをすることも少し考えてみたいと思っています。</p>
山本市長	<p>この間まちづくり懇談会で、荒谷の P T A 会長さんだった方が、荒谷でもやってほしいと言っておりました。学校現場よりもお父さんお母さんたちの方がそういうものをやることによって成績が上がったり、効果的なものが出てくるようなイメージというか、機械を使うと全て良しみたいなの風潮があるよう感じたところでもあります。しかし、そうでなくて、しっかりと成果を出してそういうものに変えていくということが大事なのであります。ただ、寺津小で 1 年くらいやって成果が出るかなどということにはわからないと思います。ですから、1 箇所じゃなくて 2 箇所でやってみるとか、そのくらいは必要ではないかと思っています。お金も掛かりますけど、やる場所は掛かってもしっかりとやっていくということが大事なのかと思っています。</p>
本田委員	<p>私が今の話の中で一ついいなと思ったことは、色々な学校を回っていると、寺津小みたいに複式になって、これからも学校が続くんだろうね、という地域のプライドが、「あっ、大事にしてもらってる。」とか、「地域の中で将来に開かれているんだ。」というような希望になっているのではないか</p>

山本市長	<p>と思います。だから荒谷からも声が出るのではないのでしょうか。天童市は、全体を見て大事にしているという意味合いでは、私はすごく良いのではないかと思ったところです。</p> <p>ここまででよろしいでしょうか。先ほど言ったことも含めて、今後もフリーディスカッションの時間も作っていただくように事務方にはお願いします。どうもありがとうございました。</p>
熊澤課長補佐	<p>では、次に教育長からお願いします。</p>
相澤教育長	<p>私はいち早く中学三年生までの医療費の無料化、大学の専門家を招いた教育支援会議、特別支援教育の充実とか弱い立場に立った天童市の教育の流れは非常に素晴らしいな、むしろそういう視点ではもう日本一とか、県下随一にはもう既に到達していると思います。それで私としてここまで言っているのかわからないのですが、二つの方向でこんなことをやってみたいということでお話させていただければと思ったところです。</p> <p>一つは、特にこれまで付いた学力をさらに高める意味ではね、「開かれたたくましい学力」と私は言うのですが、そういう方向でやってみて、例えば一つ例を挙げると、英語検定というものがありますよね。英検何パーセントだと話題にありました。実は、状況としては英語の先生によっては、一人も受けません。それは、紹介するにとどめる先生、あるいはそれは外部の問題だからという先生もおられます。私たち中学生の頃はほぼ全員が受けましたよね。そういうことを積極的に取り組んではどうか。学校教育に全部任せていると、学校の先生たちもパンクするのですが、例えば、地域公民館に場所を設けて、全員天童市の中学生は英検を受ける。それが公民館と一体となって指導してもらったり、一緒に勉強したりして、英検の受験率を上げること自体、合格率を上げること自体が私は英語の学力向上に結び付くのではないか。それが公民館と一緒にやったら素晴らしいのでは。例えばそれはモデルなのですが、それが数検もあれば漢検もある。逆に言えば、英語に特化するという視点もあると思うので、そういうように今まで付いた学力をさらに高める。そういう視点が一</p>

つです。

二つ目。私は御存じのように、調査報告書が出てから2か月間子どもたちと毎晩面談をしました。泣きながら謝るような生徒、それから保護者の悩み。ずっと受けながら私が感じたことは、この子たちの問題に帰していいのかということなのです。さっき市長からもありましたが、県下ナンバーワンの教育にするということは、むしろその子供たちに良さを育てたい、当然学校では良さを育てるように頑張っているのですが、はい授業は授業で頑張るよ、はい部活頑張るよ、行事頑張るよ、ということです。私はそこに良き市民としての育ちという視点ではどうなのか。天童市民を育てるみたいなことで、はっきり一つ提案すると、例えば教科書を作ってはどうかと思っています。天童市民の教科書です。その教科書にはどういうことが書かれているかという、天童市の歴史とか知識面もありますが、自分の生活を振り返るや、善悪の判断、場に応じた行動、ストレスの解消、市民としての義務と責任などです。家族での役割や、そういう道徳とか特別活動とか枠を超えた視点もあると思います。それが天童市の写真とか、天童の様子とか一緒にしてはどうか。例えば弱い立場の理解、男女の教育その他の食育、健康、マナーなどです。そういうことをまとめたものを作る。ただ、それは、教育課程外だとそう簡単ではないのですが、それは今までの道徳で3時間使って、特別活動で5時間使って、総合的な学習で5時間使う。天童市に学んだ子どもたちは、その教科書を使って良き天童市民として勉強するんだ。それは道徳で何時間換算するとできるのではないかというのが、ちょっと踏み込み過ぎかもしれませんが、私の夢でもあります。良き市民として育つという積極的な部分でないといじめはするなとか、アンケートに誰がいじめをしたか書けというような、それだけだと極めて貧弱なイメージで、良い市民になろう、という視点で育つことは、結局いじめ防止、あの悲しい事案を乗り越える、あるいは悲しい事案を風化させない最大の取組ではないかなと思っています。乱暴な言い方に、提案になりましたことをお許しいただいて、皆様のお力添えをいただきながらも、色々なことで誠心誠意努めてまいりますので、御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。どうぞよろしくお願ひしま



	す。 5 閉会
--	------------